

京都から こころの創生・日本の創生

～文化庁を京都に 双京構想を実現～



京都市長 門川 大作

京都市情報館 <http://www.city.kyoto.lg.jp/>

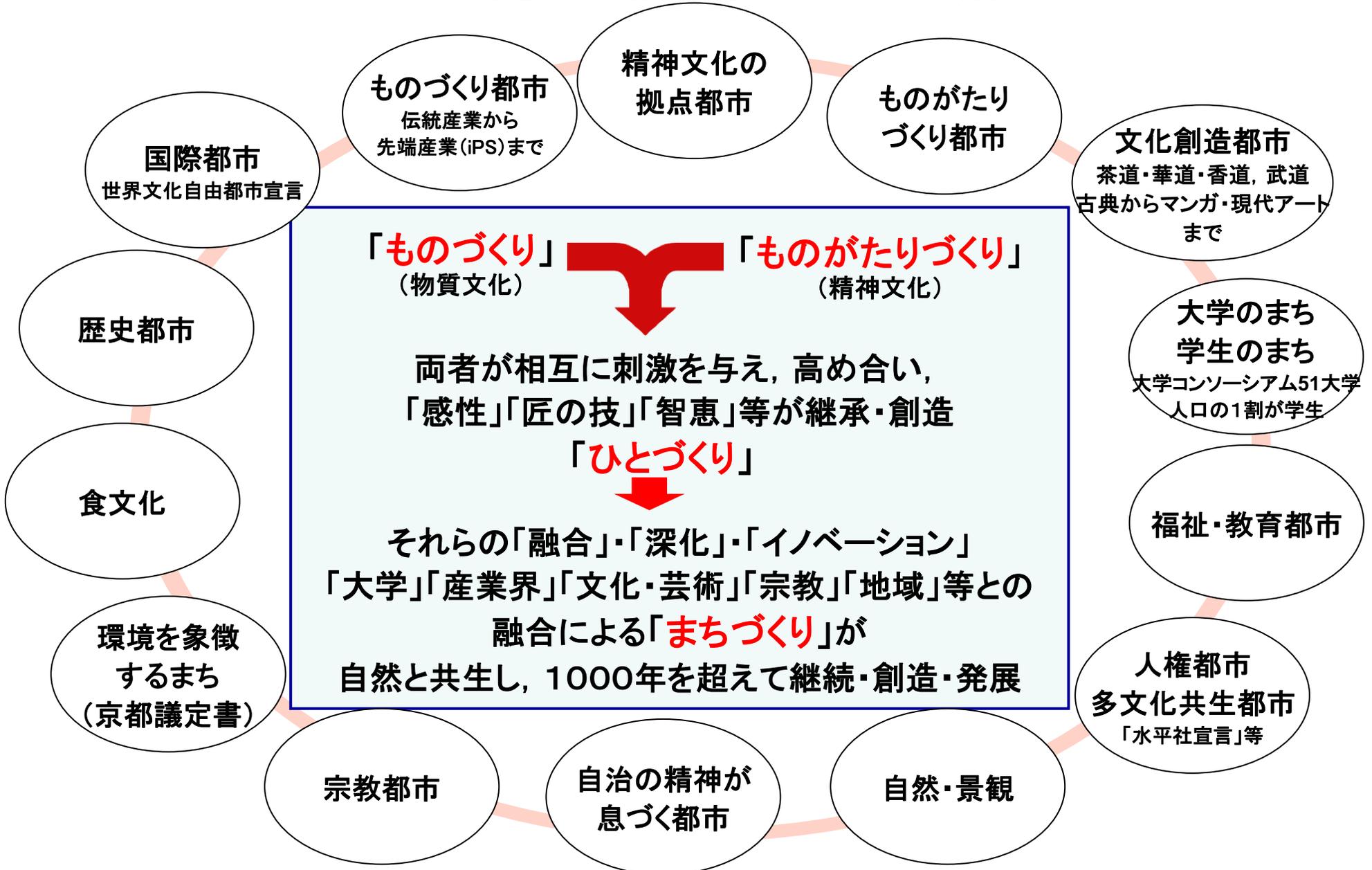
門川大作HP <http://www.kyoto-daisakusen.jp/>

facebook

門川大作FB <https://www.facebook.com/kadokawadaisaku/>

京都市の都市特性

世界に数ある歴史都市の中でも、100万人を超える規模の都市で、1000年を超えて、一度も遮断されずに文化が継承・発展している唯一の都市



京都市基本構想～市民の生き方, 得意わざを生かす～文明の大きな転換期の中で

都市の理想像 **世界文化自由都市宣言** (1978年市会の賛同を得て宣言)

全世界の人々が, 人種・宗教・社会体制の相違を超えて, 平和のうちに自由に集い自由な文化交流を行う。京都は古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが, 孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって, 優れた文化を創造し続ける新しい文化都市でなければならない。

京都市基本構想 ～市民の生き方 → 文化～

2001年～2025年の京都のグランドビジョン 市会の議決を得て策定

第1章 京都市民の生き方

京都市民の姿勢

京都市民の得意とするところ

(基本構想策定時の京都市の状況)

「基本構想」の記述から抜粋

- ・ 産業や観光の伸び悩み
- ・ 工場や大学の市外流出
- ・ 文化の創造力と発信力の低下
- ・ 都心の空洞化
- ・ 風情ある街並みの消失 など

- 私たちは, これまで細心の注意をもって周りのいのちとの共生を図ってきた**その文化的伝統を見失い**, 結果としてみずからの**生命と文明の存在を脅かす事態**に立ち至っている。
- 大量生産, 大量消費, 大量廃棄型の都市文明のあり方に対して, わたしたちは, **環境との調和**を目指す持続可能な社会をつくっていく**必要**があり, これは**次世代に対する**わたしたちの大きな**責任**である。
- この社会に, そしてさまざまな**世代間に信頼**というものを構築し直すことが強く求められている。
- 琵琶湖疏水の開削, 日本最初の小学校の設置, 市電の敷設など「京都策」と呼ばれる近代化政策に, 全国に先駆け取り組んできた。
- 現代社会の価値観とは異なったものの感じ方や考え方が今もまちの懐に息づいている。そういう歴史を断ち切るのではなくて引き継いでいこうという強い意欲がある。
- **効率や競争を過度に重視**し, 大量消費を繰り返してきたこれまでの社会のあり方に対して, **それとは別の節度ある生き方を示しうるような都市文化**を培ってきた。

京都の6つの「得意わざ」=「文化」を活かし未来へ

めきき

本物を見抜く批評眼

こころみ

冒険的な進取の精神

たくみ

ものづくりの精緻な技巧

もてなし

来訪者を温かく迎える心

きわめ

何ごととも極限にまで研ぎ澄ますこと

しまつ

もったいない

はばたけ未来へ！京(みやこ)プラン(京都市基本計画)

2011年～2020年(第2期(第1期は2001年～2010年))

徹底した市民参加の下,京都市基本計画審議会において議論,市会の議決を得て策定

京都の6つの未来像

10年後にめざすべき京都の姿

- 1 環境共生と低炭素のまち・京都
- 2 日本の心が感じられる国際都市・京都
- 3 環境と社会に貢献する産業を育てるまち・京都
- 4 学びのまち・京都
- 5 支え合い自治が息づくまち・京都
- 6 真のワーク・ライフ・バランスを実現するまち・京都

11の重点戦略

- 1 低炭素・循環型まちづくり戦略
- 2 歩いて楽しいまち・京都戦略
- 3 歴史・文化都市創生戦略
- 4 個性と活力あふれるまちづくり戦略
- 5 旅の本質を追求する観光戦略
- 6 新産業創造戦略
- 7 未来の担い手育成戦略
- 8 子どもを共に育む戦略
- 9 真のワーク・ライフ・バランス戦略
- 10 地域コミュニティ活性化戦略
- 11 いのちとくらしを守る戦略

市民の生き方を基本に政策を展開

例：景観,ごみ減量,観光,文化政策,歩くまち・公共交通優先

「新景観政策」の推進

～京都が誇る山紫水明の自然風景・風情豊かな町並み景観を保全・継承～

新景観政策の5つの柱ときめ細やかな支援策

京都の優れた景観を守り、創造し、未来へと引き継ぐ

景

観

- ① 大胆な建物の高さ規制強化(45m→31m,31m→15mなど)
 - ② 建築物のデザイン規制(屋根の色彩や外壁など、地域ごとにふさわしい建築物等のデザイン基準を設定)
 - ③ 眺望景観・借景の保全(世界遺産や京都御苑等の境内の眺め、円通寺等の庭園の眺め、五山の「しるし」への眺め等を保全するため、38の視点場を設定)
 - ④ 屋外広告物(屋上看板・点滅式看板の全面禁止、色(例:派手な色の制限)、大きさなど細かく規制)
 - ⑤ 歴史的町並みの保全・再生(京町家の保全・再生等に景観重要建造物等の指定制度を積極的に活用)
- ◎ きめ細かな支援制度を展開 同時に、国に対して国家戦略としての京都創生の観点から支援策を提案・要望

屋外広告物
適正化の推進

- 美しい品格のある都市景観の形成のため、きめ細かな基準
- 市内全域で4万5千の建物の屋外広告物
平成22年度時点 **70%**が**新条例不適合** ⇒現在 **85%**を超えて**条例の趣旨に沿ったものに**
- 優良屋外広告物への助成制度,京都景観賞屋外広告物部門の実施による優良な屋外広告物の誘導

25,000件を
撤去・是正!

(四条通周辺)



平成21年7月



平成27年7月

更なる取組

- ・歴史的景観の保全に関する検証
- ・活力ある京都の維持

- 世界遺産をはじめとする京都の景観上重要な要素とその周辺の総点検(61エリア)、景観重要建造物等の指定候補調査(寺社や近代建築:約1,000件) 今後、地域に応じた規制の見直しなど、きめ細やかな対応策を検討
- 活力ある京都を維持するため、「地区計画」や駅周辺の活用など、景観政策と調和させて推進

■ 市民ぐるみで環境にやさしい循環型社会の構築

ごみの減量



しまつのこころ条例

- 平成10年から「世界の京都・まちの美化市民総行動」年間延べ約20万人の方々が参加
- ごみ半減に向けたしまつのこころ条例を制定し2R（リデュース・リユース）を推進するなど、市民ぐるみで様々な取組を実施

● 家庭からのごみ量(1人1日当たり)

京都市:441g(指定都市最少!) 政令指定都市平均:586g

● ごみの総量をピーク時の半分以下に!

平成12年度:82万トン⇒平成26年度:46万トンまで減少

(ピーク時から43%削減)

● ごみ処理コスト

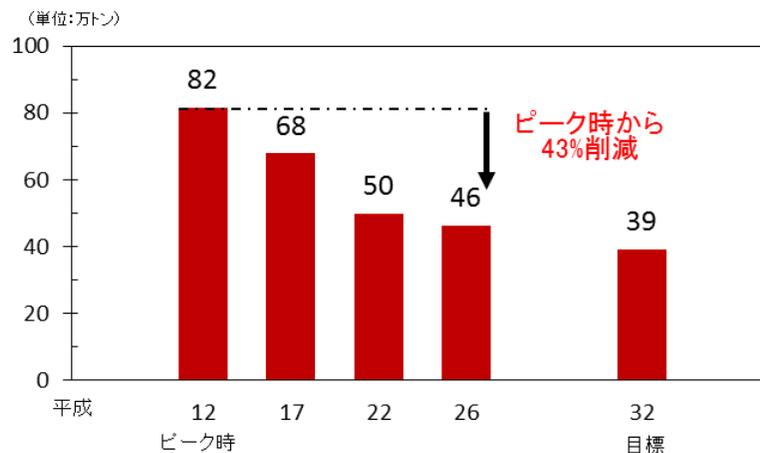
△106億円(367億円(平成14年度)→261億円(平成25年度))

● ごみ焼却施設の削減【5施設→3施設】

→財政効果:建替えだけで1施設整備費 400億円・1施設運営費 年間 10億円減

● ごみ収集経費の削減

94億円(18年度)→53億円(26年度) 年間41億円の削減



持続可能なエネルギー社会の実現

- 都市油田発掘プロジェクト **全国初**, ごみ1トンからエタノールを約60リットル製造
 - 天ぷら油の廃油 市内約1800箇所回収
- ⇒バイオディーゼルで, ごみ収集車(パッカー車)約140台・市バス約100台が運行

■ 観光と文化・まちづくりなどあらゆる分野を融合し、経済を活性化

●「観」－ 人生観, 世界観

自然, 歴史, 文化・芸術, 宗教・哲学, 食, 家族, 地域, 人, まちづくり・・・

●観光政策－ 都市政策の総和

安心・安全, 危機管理, 「人の育成」も含めたあらゆる分野を横断する総合政策として, 異分野の人やものが相互に密接に融合・連携して取り組む

(取組例)

●24時間多言語コールセンター

24時間, 5箇国語(英・中・韓・スペイン・ポルトガル)で対応可能な外国人旅行者向け多言語コールセンターを設置

●119番通報等の多言語通訳体制

京都を訪れる外国人観光客や留学生などの緊急時のコミュニケーションを助け, 災害対応を円滑に行うため, 電話通訳体制を整備

<24時間体制, 5箇国語(英・中・韓・スペイン・ポルトガル)>

●誰もが無料で利用できる全国一の自治体無線LAN

バス停, 地下鉄駅, コンビニ等の店舗, 公共施設等において, 無料の無線LANスポットを順次設置

平成27年8月1日現在で, 1, 653箇所に設置

●毎年「京都観光総合調査」で大規模アンケートを実施

結果を施策に生かし, クレーム「ゼロ」を目指す

感動: まちが清潔, 人々が礼儀正しい

不満: 歩道が狭く歩きにくい, 英語を話せる人が少ない等

●京都市観光振興推進計画(おこしやすプラン21)

<平成12年策定>

年間観光客数5000万人構想を掲げる**106事業**を実施

●未来・京都観光振興計画2010+5 <平成22年策定>

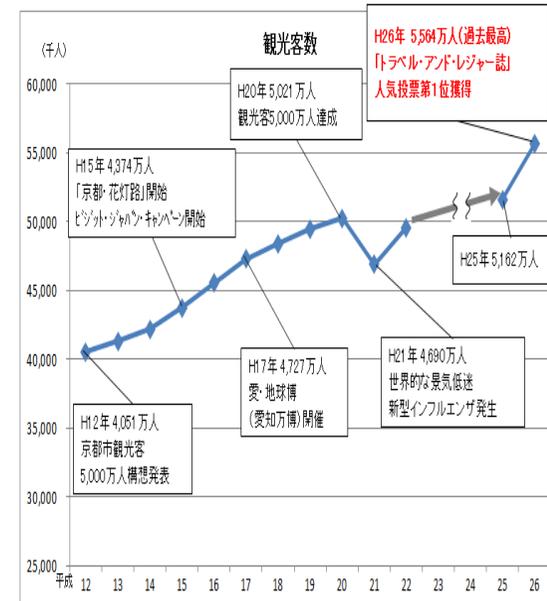
5000万人感動都市

観光都市の質の向上を目指す**116事業**を実施

●京都観光振興計画2020 <平成26年策定>

京都の都市格を更に高めるため, 世界の憧れの都市へ市民ぐるみで**191事業**を展開中

年間観光客数は過去最高の5,564万人
(前年5,162万人から7.8%増)



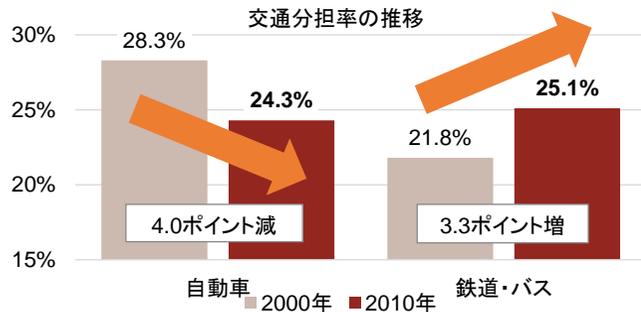
人と公共交通優先の「歩くまち・京都」

クルマ中心の暮らしから、「歩く」ことを中心とした暮らしへ
→ 健康で、人と環境にやさしい暮らし、賑わいのあるまちづくり

- ・ 「歩くまち・京都」の実現を京都市基本計画に(平成13年)
- ・ 地元の要望等を踏まえ、四条通で歩道拡幅等の大規模な社会実験(平成19年)
- ・ 「歩くまち・京都」憲章の策定(平成22年1月) → 88のプロジェクトを推進
- ・ 「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定(平成22年1月)

「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進例

自動車分担率の低減



四条通の歩道拡幅

- 安心・安全な歩行空間の確保, 公共交通の利便性向上
- 8年かけて地元, 商店街, 物流, タクシー, バス, 府警等と合意形成
- 交通量(H17年調査)
1時間当たり歩行者7,000人に対し, 自動車利用者は2,200人
- 整備内容
 - ・複数台のバスが同時に停車できるテラス型バス停の整備
 - ・タクシー利用者の乗降や荷物の積卸ができるスペースの設置

[マイカー観光率]

20年前 41.7% ⇒ 2年前 15.1% ⇒ 昨年 9.9%

歩いて楽しいまち, 公共交通の利便性向上

- 乗換検索システム「歩くまち京都アプリ」
「バス・鉄道の達人」の運用

歩くまち京都

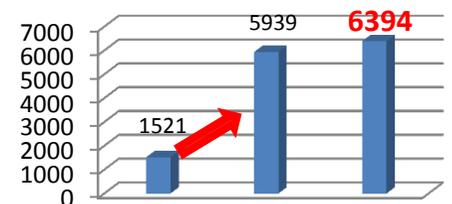
検索



パークアンドライドの推進

- 市内への自動車の流入を抑制するためにパークアンドライドを推進
- 平成19年度から7年間で約4倍の6,000台以上をパークアンドライド駐車場として確保

平成19年 平成25年 平成26年



■ 日本文化の神髄，京都の文化芸術を国内外へ！ 「京都市文化芸術プログラム2020」の策定（27年2月）

- 背景
2019～2021年の3年間に，東京オリンピック・パラリンピック（2020），関西ワールドマスタースゲームズ（2021）の世界的スポーツイベントが集中的に開催（＝国内外から多数の観光客が京都を訪問）

➡➡ 京都はスポーツと合せて，文化芸術を国内外に発信！

- 3つの方針と7つの視点

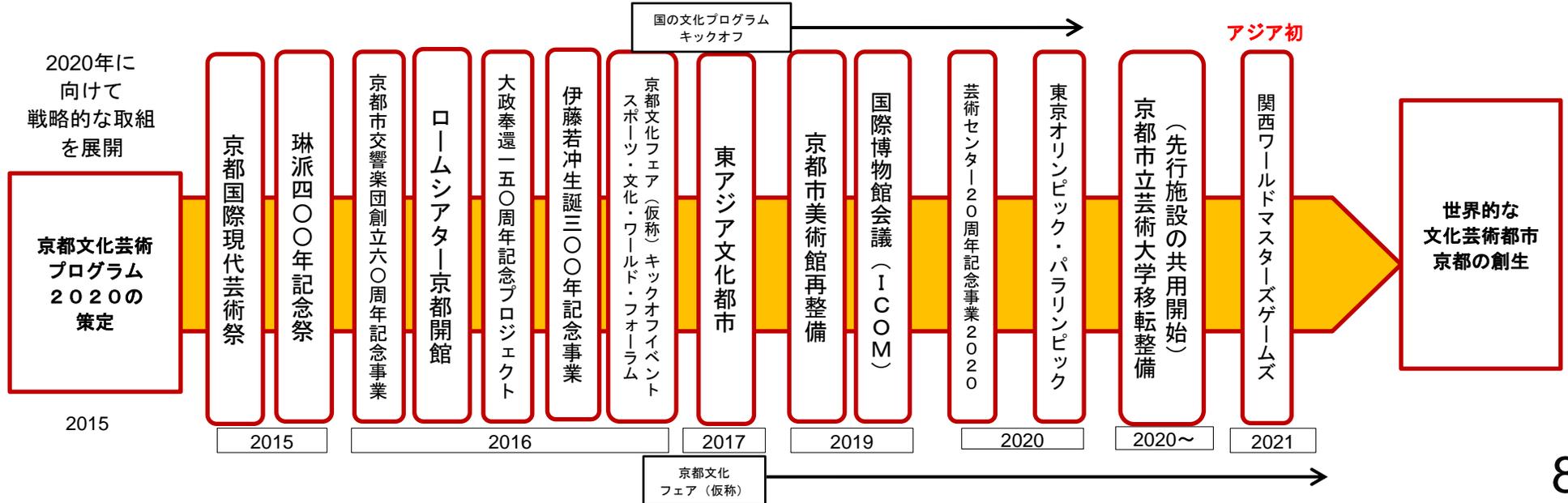
- ・ 次の世代の担い手育成 **育てる** **果たす**
- ・ 文化遺産の継承，活用と創造 **知る** **守る** **活かす**
- ・ 京都の魅力発信 **広める** **集う**

京都を訪れる方への真の「おもてなし」

- ・ 子どもたちが京都の文化を体験し，自らの言葉で語ることができる
- ・ 一般公開に向けた文化遺産の修理支援 等

- 11の重要事業（例）

- ・ 京都・和の文化体験の日・・・大学生を中心とする若者が，茶道・華道などの伝統文化を体験する機会を提供
- ・ 未来へつなぐ歴史的建造物等計画的修理事業・・・2020年までに，市指定・登録文化財建造物等を対象に集中修理を実施



Travel+Leisure誌による読者投票で京都市が 2年連続世界1位「ワールドベストシティ」に！

海外の権威ある旅行誌で高まる京都の評価（日本への評価でも）

2012年に初のベストテン入り！（9位）

1	バンコク
2	フィレンツェ
3	イスタンブール
4	ケープタウン
5	シドニー
6	ローマ
7	ニューヨーク
8	香港
9	京都
10	パリ

2013年には世界5位に躍進！

1	バンコク(タイ)
2	イスタンブール(トルコ)
3	フィレンツェ(イタリア)
4	ケープタウン(南アフリカ)
5	京都(日本)
6	ローマ(イタリア)
7	チャールストン(アメリカ)
8	バルセロナ(スペイン)
9	パリ(フランス)
10	チェンマイ(タイ)

2014年
遂に京都が1位に！

1	京都(日本)	90.21
2	チャールストン(アメリカ)	90.18
3	フィレンツェ(イタリア)	89.99
4	シエムリアップ(カンボジア)	89.82
5	ローマ(イタリア)	89.61
6	イスタンブール(トルコ)	89.58
7	セビリア(スペイン)	89.28
8	バルセロナ(スペイン)	89.18
9	メキシコシティ(メキシコ)	89.07
10	ニューオリンズ(アメリカ)	88.74

2015年 2年連続で1位に！

1	京都(日本)	91.22
2	チャールストン(アメリカ)	89.84
3	シエムリアップ(カンボジア)	89.57
4	フィレンツェ(イタリア)	89.43
5	ローマ(イタリア)	88.99
6	バンコク(タイ)	88.91
7	クラクフ(ポーランド)	88.69
8	バルセロナ(スペイン)	88.59
9	ケープタウン(南アフリカ)	88.27
10	エルサレム(イスラエル)	88.18

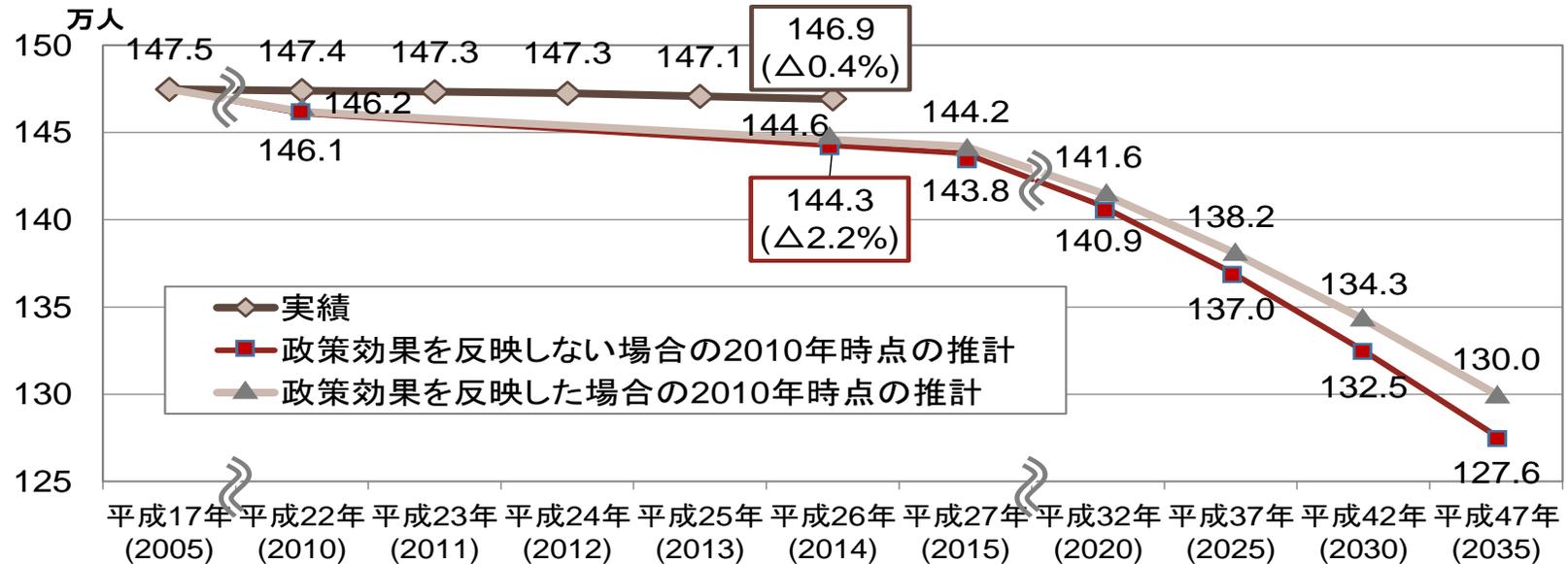
※採点ポイントは6項目 ①風景 ②文化/芸術 ③レストラン/食べ物 ④人 ⑤価値 ⑥買い物
 ※「Travel + Leisure」誌: 月刊100万部を誇る旅行雑誌。北米のリーダー層等が主な読者で、世界的で最も強い影響力をもつ。

- 「多様な価値観を認め合い尊ぶ京都の文化」と「191に及ぶ事業の成果」
- ランキングを好む世界の風潮とは一線を画しつつ、京都の歴史、文化等を大切にしたい市民ぐるみ努力の成果を喜び合い、世界への発信に努めたい。

人口減少社会への挑戦

現行の基本計画(H22.12策定)においても、人口減少社会を見つめ、人口減少を食い止める政策と、一定の人口減少を見据えた都市経営に挑戦

京都市基本計画における京都市の推計人口



京都市の人口推移は
17年度比0.4%減の
146.9万人(H26.10.1)と
H22.12策定の計画での想定
(2.2%減)より善戦しているが厳しい状況

合計特殊出生率

- 全国を下回る水準

合計特殊出生率	17年	25年
京都市	1.11	1.26
全国	1.26	1.43

大学進学率(平成25年)

- 全国を上回る水準

大学進学率	合計	男性	女性
京都市	68.5%	65.8%	71.2%
全国	53.2%	50.9%	55.5%

■ 地方創生・京都創生に向けた京都市の基本的な考え方・取組

- 国の「まち・ひと・しごと・創生」に対し、京都市では「こころ」を重視。
- 3月に、「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略中間案発表（政令市）。9月中に戦略案策定。
- 日本の精神文化の拠点として、東京圏と異なる価値観の形成を促進し、地方への人の流れをつくるプラットフォーム的役割を担い、京都市が、伝統文化、伝統産業、自然景観を保全・継承し、磨き、発展させながら、日本の「こころの創生」の中核を担う役割を果たしていく。
- 行政主導ではなく、市民、地域、NPO、企業、大学等が危機感を共有。同時に使命感や夢・目標を共有し、「自分ごと」、「自分たちごと」、「みんなごと」として考え、行動する。
- 全国の地方自治体、過疎地と心をつなぎ、連携して取り組む。
（京都市域は75%が森。その中に限界集落も多数あり、悩み・課題・意識を共有している。）
- 「地域力」「人間力」「歴史力」「企業力」「大学力」と行政がお互いを磨き高め合うための仕組みづくりとして、提案を募集。応募いただいた提案は、「京都創生・お宝バンク」に登録（137件）。
- 「総合戦略」におけるシンボルプロジェクト（例）
 - ①結婚・出産・子育ての希望みんなで応援プロジェクト
 - ②「住むなら都」移住支援プロジェクト
 - ③京都で働く！魅力的な仕事との出会い促進プロジェクト
 - ④「日本のこころ」を知り、感じるプロジェクト
 - ⑤各区・地域の住民主体の「我がまち」創生プロジェクト

「京都と日本の文化」「文化首都の実現」

◇ 794年、桓武天皇が京都を都に。

以来、京都は、千年を超えて都市の文化が継承・創造・発展。全国、さらには世界の文化が京都に集まり、熟成されつつ同時に全国に広まり、日本ならではの奥深く、多様な文化が形成された。

◇ 千年前の文化が途絶えず今に繋がる継続性・系統性を持つ国は、世界的に稀有

- ・ 皇太子・皇太子妃(プリンス・プリンセス)の御婚礼の装束・十二単が千年以上変わらない
- ・ 「春はあけぼの、夏は夜・・・」など、千年前に書かれた言葉がそのままの言葉で現代人の心に響くのは世界的に稀有
(千年前の英語、フランス語等は今の言葉と大きく異なる) など

◇ このかけがえのない日本の歴史、伝統、文化、心を、絶やすことなく未来に引き継ぐことが重要

京都の使命: 日本の歴史、伝統、文化、心を今に受け継ぐ都市として、我が国の発展、文化力(ソフトパワー)向上のために、京都ならではの役割を果たす

文化首都の実現

- ・国会があり、一部上場企業等の集積による効率性を求める政治・経済とは異なり、歴史や伝統に基づく多様性が求められるのが文化
- ・我が国の文化の中核機能を日本文化を創り出してきた京都に移転し、文化を軸にしたもうひとつの日本の交流拠点＝「文化首都」を実現



「政治・経済」と「文化」の双方で日本の「都(みやこ)」としての機能を果たし、経済・文化両面から日本創生を実現

京 都

世界の文化首都
の役割を担う



東 京

日本の首都機能
政治・経済等の中心

双京構想の実現に向けて

双京構想とは

日本の大切な皇室の弥栄，そして，我が国の伝統を守り，文化を発展させるため，皇族の方に京都にもお住まいいただき，「東京」と「京都」が我が国の都としての機能を双方で果たしていくこと

➡ 東京一極集中から脱却し，自律・分散・協調型の国土形成へ

双京構想の必要性

<首都機能のバックアップ>

首都機能は東京に集中

東日本大震災を一つの契機に，あらゆることを分散型・多極型で考えることが求められるようになった。

<日本の伝統・文化>

グローバリズムの進展，経済効率優先

リーマンショックなどを経て，経済だけでなく，伝統・文化を基軸とした国づくりの重要性が増している。

京都と皇室のかかわり

- 京都は，千年以上もの長きにわたり都として栄え，皇室を中心に宮中文化が育まれてきた。
- 東京の皇居以外に唯一現役の御所があり，^{たかみくら}高御座（即位の礼の際に用いられる）は「京都御所」にのみ存在。
- 明治維新を迎え，政府の政策により，天皇が東京にお住まいを移された後も，京都市民は，京都の景観，伝統・文化を守り育てるため多大な努力を傾注。
- 京都は，日本の精神文化，学術，文化・芸術，宗教，ものづくり等の中心として国内外の人々を魅了し続けてきた。

➡ 首都・東京とともに，皇室ゆかりの都市であり日本の精神文化の拠点都市・京都で「双京構想」を着実に推進することで，日本の未来が，皇室とともに更に発展していくことを願う。

文化庁等の移転による意義

我が国の課題

- ・ 経済成長中心から、成熟社会に適合した新たな文化や社会モデルの構築への対応
- ・ 日本の文化財や伝統等の価値を日本人自身が十分に認識し、国内外への発信を更に強化する必要
- ・ 人口減少社会が到来し、地域コミュニティの衰退と文化芸術の担い手不足が指摘

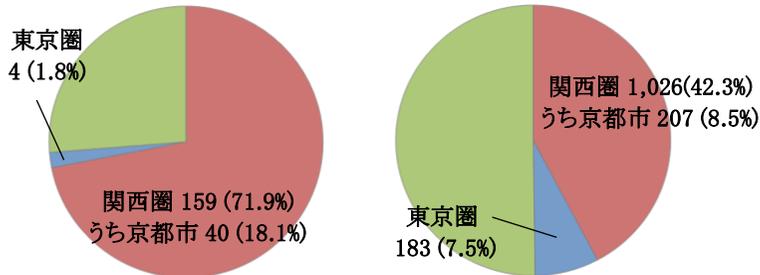
◆ 国宝の約5割, 重要文化財の約4割は関西に集積(件数ベース)

「醍醐寺文書聖教」は約7万点からなるが、国宝としては1件のカウント

質量ともに計り知れないほどの文化財が集積

建造物では

【国宝】



◆ 文化の懐の深さ・広さ

～古典芸能・伝統文化からマンガ・アニメ・現代アートまで～

◆ 伝統文化を支える伝統産業等が集積

経済産業大臣指定伝統的工芸品指定数	17品目 (全国で222品目)
京都市独自指定の伝統産業	74品目
伝統工芸士認定登録者数 (H27.2現在)	1,056人 (全国で4,241人)

移転による効果

文化の多極化による真の地方創生

京都から日本の文化力の海外発信と大交流の創出

日本文化の次世代継承のためのひとづくり

京都市財政の特徴

○政令市の中でも少ない市税収入(市民一人当たり 171,584円)

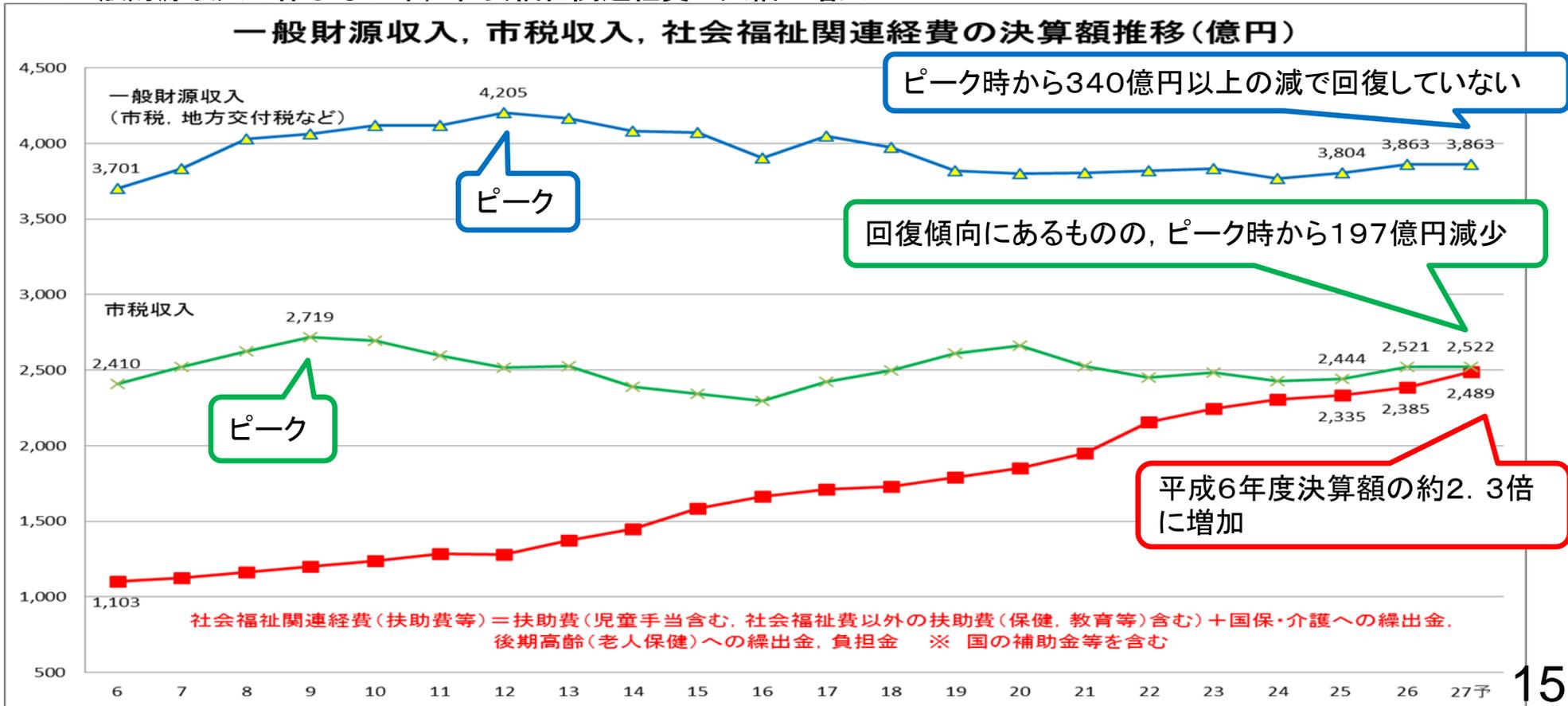
■都市の歴史的, 地理的性格として財政基盤がぜい弱

■大阪市より市民1人当たり年額で約74,000円少ない市税収入 ⇒ 147万人分とすると年額1,086億円少ない

○増大する社会福祉関連経費

全国トップ水準の福祉, 子育て, 教育, 環境施策などを推進

■一般財源収入が伸びない中, 社会福祉関連経費は大幅に増加



日本の未来を見据えた施策を推進するため、行財政改革を徹底

職員数の削減



人件費(全会計)
19年度→27年度
(8年間で)
335億円超削減

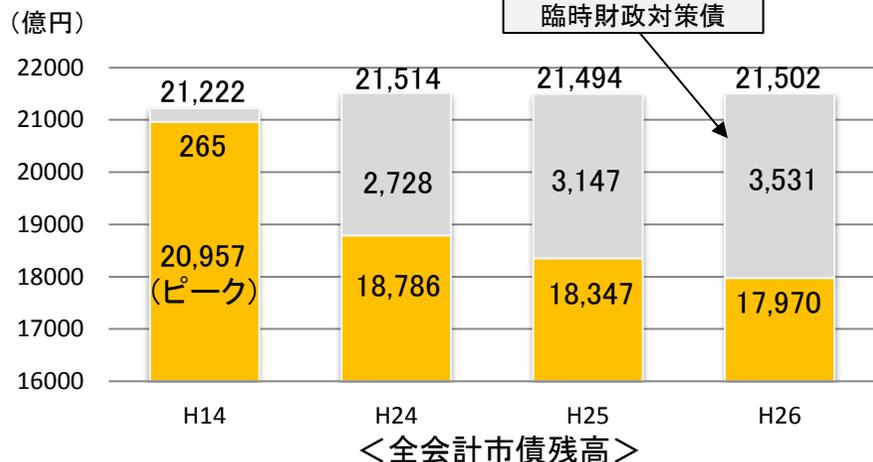
徴収率が過去最高を更新(26年度決算)

過去最高

徴収率	京都市	過去最低時期と比較した増収効果
市税	97.9%	154億円(平成6年度比)
国民健康保険料	93.4%	9億円(平成21年度比)
介護保険料	98.4%	2億円(平成17年度比)
市営住宅家賃	98.8%	2億円(平成11年度比)

全会計の実質的な市債残高の縮減

- 実質的な市債残高は大きく減少
(国が返済に責任を持つ臨時財政対策債を除く)
- 平成14年度 2兆957億円 → 平成26年度末 **1兆7,970億円**
(14年度→26年度 △2,987億円(14.3%減))
- 「生産年齢人口1人当たり実質市債残高」を増やさない



市バス・地下鉄の経営健全化

- 年間50億円の赤字(14年度)から24億円の黒字(26年度)へ
- 利便性向上と更なる利用促進を図る「攻めの経営」
- 1日当たり旅客数 31.1万人(21年度)→**34.1万人(26年度)**
- 24年度決算で**計画より3年前倒して経営健全化団体から脱却**
- 27年度には一般会計からの任意補助金に頼らない自立した経営を確立
- バスロケの設置促進(H26～3年間で200基増設)
- 地域、事業の協力による「バスの駅」の整備

- 1日当たり赤字(4,600万円(18年度))を23分の1の**200万円(26年度)**に
- 1日当たり旅客数 32.7万人(21年度)→**35.9万人(26年度)**
5年間で**3.2万人増**(30年度までに5万人増客に向け大きく前進)
- 利便性向上、都市の活性化や**駅ナカビジネス(195千万円→268億円(見込み))**の推進(「コトチカ」の開設等)
- 経営健全化計画を大きく上回る収支改善